

第41回環境保全・公害防止研究発表会の概要

(公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター

平成26年12月10日(水)および11日(木)に環境省、全国環境研協議会および兵庫県・(公財)ひょうご環境創造協会の共催による第41回環境保全・公害防止研究発表会が神戸市のパレス神戸で開催されました。

研究発表に関しては全国環境研協議会の会員から50題の演題応募があり、大気(16題)、植物・騒音(4題)、化学物質・分析法(9題)、水質(7題、うち1題は要旨のみ)、閉鎖性水域(5題)、生物・ネットワーク解析(4題)、廃棄物(5題)のセッションが2会場に分かれて研究発表が行われました。

1日目は主催者のあいさつ、続いて特別講演および研究発表が行われ、2日目は引き続き研究発表が行われました。2日間で会員および行政機関等から延べ218名の参加があり、成功裏に終了しました。

1. 開会あいさつ



(公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター長 神田 泰宏 氏

皆さん、こんにちは。兵庫県環境研究センター長の神田でございます。本日は、「第41回環境保全・公害防止研究発表会」に、全国各地から兵庫県にお集まりいただき、ありがとうございます。

昨今、各研究所におきまして研究員の数が減少



A 会場風景



B 会場風景

第41回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成26年 12月10日(水)	パレス神戸(A会場(2階大会議室)葵の間)		
	○開会(13:30~13:45) 開会あいさつ (公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター長 神田 泰宏		
	主催者あいさつ 環境省環境研究技術室長 吉川 和身 全国環境研協議会会長 飯塚 政範 兵庫県環境部長 梅谷 順子		
	○特別講演(13:50~15:00) 演題：環境分析の将来展望 ―網羅分析, 指標分析, スペシメンバンキング― 講師：柴田 康行(独立行政法人国立環境研究所 環境計測研究センター 上級主席研究員) 座長：飯塚 政範(全国環境研協議会会長(秋田県健康環境センター所長))		
	○研究発表 (15:10~17:16)		
A会場(2階大会議室)葵の間		B会場(2階中会議室)楓の間	
○大気Ⅰ (15:10~17:16)		○水質 (15:10~17:16)	
平成26年 12月11日(木)	○研究発表 (9:00~15:52)		
	A会場(2階大会議室)葵の間		B会場(2階中会議室)楓の間
	○大気Ⅱ (9:00~10:30)	○閉鎖性水域 (9:00~10:30)	
	○植物・騒音 (10:40~11:52) (昼食・休憩)	○化学物質Ⅰ (10:40~11:52) (昼食・休憩)	
	○化学物質Ⅱ・分析法 (13:00~14:30)	○廃棄物 (13:00~14:30)	
○大気Ⅲ (14:40~15:52)	○生物・ネットワーク解析 (14:40~15:52)		
○閉会 A会場(15:55~16:10) 閉会あいさつ 環境省環境研究技術室長 吉川 和身 次期開催県あいさつ (公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所長 柿沼 潤一 開催県閉会あいさつ (公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター長 神田 泰宏			

している中、研究発表の数が例年通り集まるのかどうか心配していたのですが、例年より多い50題もの申し込みをいただきました。重ねてお礼申し上げます。環境研究が着実に進められていることを心強く感じた次第です。

研究発表50題のテーマの内訳ですが、PM_{2.5}など大気分野が一番多くて16題、続きまして水質：12題、化学物質：9題、廃棄物：5題、その他：8題となっています。ただし、内容的に複数分野にまたがる研究が多くございます。この発表会は、環境行政に科学的知見を与えるさまざまな研究がどのような状況にあるのかを知ることでできる絶好の機会です。ご自身の研究分野を深く掘り下げられるとともに、異なる分野の研究への関心も拡げていただければと思います。

また、本日の発表会終了後には、恒例の情報交

換会を予定しております。今回は、発表時間が例年より若干短くなっていますので、その分情報交換会で補っていただくとともに、個人レベルのネットワークも拡げていただきたいと思います。

それでは今日、明日の2日間、活発な情報交換、意見交換が行われ、参加者の一人ひとりが何か新しい刺激を得られますことを願ひまして、「第41回環境保全・公害防止研究発表会」を開催いたします。どうぞよろしく、お願いいたします。

2. 主催者あいさつ

○環境省のあいさつ

ただいまご紹介いただきました環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室長の吉川でございます。

今回第41回目という節目の研究発表会が、ここ



(環境省総合環境政策局環境研究技術室長
吉川 和身 氏)

神戸で開催されることをたいへんうれしく思っています。また非常に歴史のある発表会で、環境省の前身である環境庁が発足して間もない昭和49年から毎年開催されており、まさに日本の公害行政、環境行政、環境研究、環境政策の創生から発展の流れに併走してきたものではないかと思っております。

本日は、残留性有機汚染物質を中心とした環境モニタリング手法の開発、ならびに試料長期保存(スペシメンバンク)に関する活動解明に取り組んでおられます国立環境研究所の柴田康行上級主席研究員より、環境分析の将来展望についてご紹介いただきます。

環境分析というのは環境行政、公害行政の基礎に当たりまして、言い換えればタクトに当たるものであります。これを使って、皆様もこれまで実際のデータをとられてきたわけですし、環境問題に取り組む上では、環境の監視を行い、さまざまな環境影響因子の影響評価などの実態をきちんと把握しておくことが、プロセスの解明、また予防、対策を行う上での基本となります。環境計測はそのための重要な手段であり、今後ともさらなる高度化、体系化をめざして取り組んでいく必要があります。これまでもダイオキシン類や、現在ではPM_{2.5}問題のように国際的な汚染が考えられる問題につきまして、その原因物質を特定し、プロセスの解明につなげるには、高度な環境計測を広範囲に実施していくことが重要であります。とくに、PM_{2.5}につきましては、世の中の関心も高く、地方研究機関等の役割としても、この問題への対

応が社会から期待されているところではないかと思っております。

今回の研究発表会では、そうした観点から、これまで皆様が取り組んでこられました研究や、最近の新しいPM_{2.5}問題に対応した研究等さまざまな発表がいただけるものと承知しております。お互いに情報交換させていただきまして、それぞれに有益な知見が得られたらと思っております。

さて、環境省では、皆様の研究を支援させていただくツールとして、いわゆる公募型の研究資金、環境研究総合推進費を運営しています。

地域連携課題については、従来から採択に考慮してきましたが、地環研の皆様が日々取り組まれておられる研究課題は、行政ニーズに即応するものであり、よりダイレクトに地方のニーズに合わせようと、平成27年度新規公募に当たりましては、地方自治体から提案のありました行政ニーズを提示し、新規公募を実施させていただき、琵琶湖や地域の温暖化対策など多くの提案をいただいております。

来年度以降も地方の研究機関と自治体行政が連携し、今必要な自治体政策となる課題を提案いただければと思います。環境省としては、こうした下支えをさせていただきながら地域における環境行政を支える科学的・技術的な中核組織であります地方環境研究所を引き続き支援してまいりたいと考えております。

最後になりますが、本研究発表会の開催に当たりご尽力をいただきました兵庫県および全環境研協議会の関係者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。本日までのご丁寧な事前の開催準備を始め、このような立派な会場も準備していただきました。県のご尽力をたいへんありがたく感じております。皆様におかれては、ぜひとも情報交換、意見交換、親睦を深めていただければ幸いです。

この2日間が皆様にとって実り多いものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

○全国環境研協議会のあいさつ

今年度、全国環境研協議会の会長を務めています秋田県健康環境センターの飯塚でございます。第41回環境保全・公害防止研究発表会の開会に当



(全国環境研協議会会長 飯塚 政範 氏
(秋田県健康環境センター所長))

たり一言挨拶を申し上げます。

本日は全国から多数の方々にご参加いただき誠にありがとうございます。また、本研究発表会の開催に当たり、環境省、国立環境研究所ならびに今回準備にご尽力をいただいた兵庫県、そしてひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センターの皆様へ厚く御礼を申し上げます。

さて、私ども地方環境研究所は、環境行政を支える科学的・技術的な中核機関として健康被害の防止など地域住民に安全安心を提供する使命を担っております。しかし、近年は人員や予算の削減が進み、知識・技術の継承がたいへん厳しくなっております。こうした中、国立環境研究所との共同研究や地方環境研究所同士の情報交換・連携、そしてこの研究発表会など、協議会の事業活動を通して力を合わせて行くことが大切であると考えております。

研究発表会の演題数は例年40前半程でありましたが、今年度は皆様のご協力により50演題と多数エントリーしていただいております。かつて環境問題と言えば昭和40年代以降の高度経済成長に伴う大気、水質、騒音、振動、悪臭など典型7公害がその対策を含めて行政の大きな課題となっておりました。現在は分析技術や情報処理技術の進歩により、解析等で取り扱えるデータも飛躍的に伸び、従来では想定しなかった新たな生活環境への影響も解明されてきております。

今回の発表会では、近年話題となっているPM_{2.5}を始めとした広域大気汚染、環境中の化学物質、環境の変化に伴う生態系への影響など幅広

い分野において、新たな考え方や技術によるアプローチが多数紹介されるものと期待しているところです。

最後になりますが、本研究発表会が皆様の地域で複雑化・多様化する環境問題解決の糸口となり、皆様の研究が一層深まり発展されますことを祈念して挨拶とさせていただきます。

○兵庫県のあいさつ



(兵庫県環境部長 梅谷 順子 氏)

兵庫県環境部長の梅谷でございます。

本日は、環境省の吉川環境研究技術室長様をはじめ、全国各地からたくさんの方々に兵庫県にお集まりいただき、ありがとうございます。開催県として心より歓迎申し上げます。

兵庫県は、県の中央を中国山地と丹波山地が東西に走り、北は日本海、南は瀬戸内海から淡路島を経て太平洋に面しており、豊かな自然環境に恵まれています。また、歴史文化につきましても、旧国名でいいますと、但馬、丹波、摂津、播磨、淡路の5国があり、それぞれの地域で特色があります。皆様方には、神戸が一番馴染み深いかと思いますが、今年は軍師官兵衛がNHK大河ドラマで取り上げられ、姫路や伊丹もご存じではないでしょうか。

本年3月、「第4次兵庫県環境基本計画」を策定し、今回の計画では、各地域特性を活かし、県民、地域団体、NPO、事業者、行政などが協働する「地域力」を基本理念に盛り込んだところです。それぞれの地域の魅力やふるさと意識を共有し、より良い環境づくりに向けて協働する「地域力」は、ますます重要になってきていると思いま

す。

各地域の多様な主体が協働するうえで基盤となるのが調査研究活動です。基礎となるデータ、調査研究活動の客観的な成果は、多様な価値観を持つ各主体に共通の方向性を与えるうえで、なくてはならないものです。その役目を担っている皆様に集まっていたいただいていると思っております。

兵庫県では現在議会開催中で、昨日まで3日間本会議が開催され、環境関連にも多くのご質問をいただいています。①地球温暖化防止の観点から、再生可能エネルギー、燃料電池電気自動車、省エネ住宅、②獣害被害、③PM_{2.5}の問題で、大変議会の関心も高い状況でした。

各府県でもこのテーマ(PM_{2.5})に関しては関心が高く、今回多くの発表をエントリーいただいております。兵庫県でも調査分析や発生源の解明などに懸命の努力を続けておりますが、その原因の一つとして、中国大陸からの越境汚染が言われています。兵庫県では、中国・広東省と姉妹提携関係にあり、今年度から公開の情報交換会を開催し、兵庫県及び広東省のPM_{2.5}の現状や発生源対策について情報交換を行っているところです。来年のできるだけ早くに、広東省の関係者の方々に来ていただいて分析方法などを検討して頂く機会を持ちたいと思います。

環境省の方でも、中国の大気環境改善のため、日本と中国の自治体間交流を推進する都市間連携事業を実施されておりますので、本県としても自治体レベルでの技術交流を積極的に進めていきたいと思っております。

本日から開催される発表会におきましては、国立環境研究所の柴田先生に「環境分析の将来展望」についてご講演いただくとともに、PM_{2.5}を始めとする大気汚染、水質汚濁、化学物質、廃棄物、騒音、植物、生物など様々な分野の研究成果について発表が行われます。2日間ではありますが、これらの研究成果をもとに活発な情報交換・意見交換を行っていただき、各自治体における環境政策はもとより、各自治体の国際協力にも貢献されることを期待しております。

最後になりましたが、全国環境研協議会の益々のご発展と、本日お集まりの方々のご健勝・ご活躍を祈念しまして、開催県のあいさつとさせていただきます。

たきます。

3. 特別講演

独立行政法人国立環境研究所環境計測研究センター上級主席研究員柴田康行氏により「環境分析の将来展望—網羅分析、指標分析、スペシメンバンキング—」について、特別講演が行われました。概要は特集として後に掲載しております。

4. 研究発表

2日間にわたり、A会場・B会場の2会場で50の演題について、以下のとおり研究発表が行われました。以下にその概要を示します。

(1) 第1日目

(パレス神戸 A会場)

○大気Ⅰ [15:10~17:16]

座長：星 純也((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所)

1A1-1 奈良県におけるPM_{2.5}常時監視モニタリングの解析結果について

浅野 勝佳ほか(奈良県景観・環境総合センター)

1A1-2 PM_{2.5}の濃度上昇と気象の関係についての考察

三田村 徳子ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

1A1-3 石川県における微小粒子状物質(PM_{2.5})の成分測定結果について

宮田 朋子ほか(石川県保健環境センター)

座長：山口 高志((地独法)北海道立総合研究機構環境科学センター)

1A1-4 標高差のある大気連続観測から見える富山県のPM_{2.5}高濃度事象

山崎 敬久ほか(富山県環境科学センター)

1A1-5 新潟県におけるPM_{2.5}調査について

高橋 雅昭ほか(新潟県保健環境科学研究研究所)

1A1-6 島根県におけるPM_{2.5}高濃度エピソードの発生源推定

高木 智史ほか(島根県保健環境科学

研究所)

- 1A1-7 隠岐および京丹後における大気エアロゾル化学成分連続自動分析結果について
谷口 延子ほか(京都府保健環境研究所)

(パレス神戸 B会場)

○水質 [15:10~17:16]

座長：加田平 賢史(大阪市立環境科学研究所)

- 1B1-1 寝屋川流域における水質汚濁の現状と対策について 一浚渫の水質浄化効果の定量的把握への試み—

小野 純子ほか((地独法)大阪府立環境農林水産総合研究所)
(講演要旨のみ)

- 1B1-2 長野県野尻湖における湖水中有機物の実態調査

山下 晃子ほか(長野県環境保全研究所)

- 1B1-3 渡良瀬川周辺土壌中の重金属が河川に与える影響の把握

中曾根 佑一ほか(群馬県衛生環境研究所)

座長：一瀬 諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究所センター)

- 1B1-4 15N-マイクロシスチンを用いたマイクロシスチン類の環境実態調査

荒堀 康史ほか(奈良県景観・環境総合センター)

- 1B1-5 アオコの有毒物質マイクロシスチンのモニタリング手法の検討

佐野 友春ほか(独立行政法人国立環境研究所)

- 1B1-6 琵琶湖北湖におけるメタロゲニウム粒子(Metallogenium-particles)の発生状況について(2002年度-2013年度)

古田 世子ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究所)

- 1B1-7 湖沼底質における鉛同位体比のサイト間比較

加田平 賢史(大阪市立環境科学研究所)

(2) 第2日目

(パレス神戸 A会場)

○大気Ⅱ [9:00~10:30]

座長：浦西 克維(奈良県景観・環境総合センター)

- 2A1-1 東京都におけるPM_{2.5}高濃度日の特徴(Ⅰ)—出現頻度とその要因解析—

星 純也ほか((公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所)

- 2A1-2 東京都におけるPM_{2.5}高濃度日の特徴(Ⅱ)—化学成分組成—

齊藤 伸治ほか((公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所)

- 2A1-3 大阪府域におけるPM_{2.5}高濃度日の特徴について

西村 理恵ほか((地独法)大阪府立環境農林水産総合研究所)

- 2A1-4 和歌山県における黄砂等エアロゾルの事例解析

木野 恵太ほか(和歌山県環境衛生研究センター)

- 2A1-5 茨城県における微小粒子状物質の発生源解析について

相馬 久仁花ほか(茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

○植物・騒音 [10:40~11:52]

座長：平木 隆年((公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター)

- 2A2-1 植物に対する低線量環境放射線の影響

青野 光子ほか(独立行政法人国立環境研究所)

- 2A2-2 名古屋市における遺伝子組換えナタネの現状について

大畑 史江ほか(名古屋市環境科学調査センター)

- 2A2-3 風力発電設備周辺における風車音調査

桶谷 嘉一ほか(和歌山県環境衛生研究センター)

- 2A2-4 沖縄県における航空機騒音 WECPNL と Lden の比較

友寄 喜貴ほか(沖縄県衛生環境研究所)

○化学物質Ⅱ・分析法 [13:00~14:30]

座長：松村 千里((公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)

- 2A3-1 川崎市におけるナフタレン等大気環境調査結果
福永 顕規ほか(川崎市環境総合研究所)
- 2A3-2 広島市東部地域における環境大気中ダイオキシン類調査について
村野 勢津子ほか(広島市衛生研究所)
- 2A3-3 山口県内の大気環境中におけるダイオキシン類発生源の推定
上杉 浩一ほか(山口県環境保健センター)
- 2A3-4 奈良県における有害大気汚染物質(1,2-ジクロエタン)濃度と微小粒子状物質(PM_{2.5})の挙動について
浦西 克維ほか(奈良県景観・環境総合センター)
- 2A3-5 PM_{2.5}自動測定機と小型センサーの比較
山口 高志ほか((地独法)北海道立総合研究機構環境科学研究センター)

○大気Ⅲ [14:40~15:52]

座長：中坪 良平((公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)

- 2A4-1 東京都内における光化学オキシダント高濃度時の大気中VOC成分の挙動
石倉 淳士ほか((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所)
- 2A4-2 神戸市域における有害大気汚染物質等の動態解析
向井 健悟ほか(神戸市環境保健研究所)
- 2A4-3 分析走査電子顕微鏡法による大気中アスベスト濃度測定について
須永 宏(さいたま市健康科学研究センター)
- 2A4-4 パーティクルカウンターによるアスベスト漏えい監視方法の検討
藤原 亘ほか((公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)

(パレス神戸 B会場)

○閉鎖性水域 [9:00~10:30]

座長：荒堀 康史(奈良県景観・環境総合センター)

- 2B1-1 湯ノ湖プランクトンの季節変化および水質との関係について
塩月 智子ほか(栃木県保健環境センター)
- 2B1-2 宮崎県延岡市沖田川で発生した赤潮事例
三坂 淳一ほか(宮崎県衛生環境研究所)
- 2B1-3 湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価
一瀬 論ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 2B1-4 大腸菌測定における疎水性格子付メンブランフィルターの不具合の発見 ~クロスチェックの有効性と他機関との連携~
石井 裕一ほか((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所)
- 2B1-5 琵琶湖底質調査結果(その3)について
卯田 隆ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

○化学物質Ⅰ [10:40~11:52]

座長：八木 正博(神戸市環境保健研究所)

- 2B2-1 茨城県内河川水中の合成着色料青色1号の濃度分布
菅谷 和寿(茨城県霞ヶ浦環境科学センター)
- 2B2-2 福井県における有機フッ素化合物の排出源と挙動について
川下 博之ほか(福井県衛生環境研究センター)
- 2B2-3 下水処理場におけるフッ素テロマーアルコール類のマスマランス
野尻 喜好ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- 2B2-4 国立環境研究所Ⅱ型共同研究「国内における化審法関連物質の排出源および動態の解明」の進捗状況について
西野 貴裕ほか((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所)

○廃棄物 [13:00~14:30]

座長：神保 有亮(富山県環境科学センター)

- 2B3-1 産業廃棄物の最終処分場における硫化水素発生対策とモニタリング調査
平川 周作ほか(福岡県保健環境研究所)
- 2B3-2 ガラスの分相現象を利用した新規レアメタル分離技術の開発
門木 秀幸ほか(鳥取県衛生環境研究所)
- 2B3-3 廃ブラウン管ファンネルガラスからの鉛除去技術の実証(第1回)
小林 拓史ほか(鳥取県衛生環境研究所)
- 2B3-4 エージングによる一般廃棄物焼却灰の無害化に関する研究
成岡 朋弘ほか(鳥取県衛生環境研究所)
- 2B3-5 土壌に混入した廃石膏ボードのX線分析と溶出試験による含有量測定を試み
下嵯 楓ほか(長野県環境保全研究所)

○生物・ネットワーク解析 [14:40~15:52]

座長：石井 裕一((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所)

- 2B4-1 GISのネットワーク解析を用いた廃棄物処理施設の最適収集エリアの検討
神保 有亮ほか(富山県環境科学センター)
- 2B4-2 榎野川河口干潟(南潟)におけるアサリ稚貝生息状況調査
恵本 佑ほか(山口県環境保健センター)
- 2B4-3 淡水二枚貝と沈水植物を用いた水質浄化方法の検討
吉澤 一家ほか(山梨県衛生環境研究所)
- 2B4-4 希少二枚貝イシガイ科の保護を目的とした生息個体密度が異なる水路における水質の比較
田中 仁志ほか(埼玉県環境科学国際センター)

5. 閉 会

閉会に当たり、環境省および兵庫県から閉会の挨拶が、また次期開催県としての挨拶が東京都からありました。

○環境省の閉会のあいさつ

第41回環境保全・公害防止研究発表会の閉会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

皆様お疲れさまでした。数多くのご発表、ご議論をいただきまして、とくに今年は多くの発表があったにもかかわらず、たいへんスムーズな進行で、各分野に渡る調査・研究の成果発表と議論が行われたことと思います。これもひとえに、発表者の皆様のご準備、そして各座長の的確なご運営の賜物と思います。

2日間A会場で大気関連の発表聞いておりましたが、私自身は、大気の仕事は10年近く前にVOC規制の仕事をやっておりましたので、最新の情報を集めることができたと思っております。若手の発表者が目立っていると思いました。2日間、情報交換と議論により、お互い啓発につながり、非常に有益であったと思います。環境研究や審議会などの専門家の先生との意見交換の際に、最近若い研究者が少ないことが取り上げられています。大学でも自治体においても、予算や仕事移動の関係上若手の研究者が、研究に着手できる環境が整っていないのではないかと問題がある。このような会をぜひ続けていけるように努力したいと思います。環境省が皆様をなかなか力強くサポートできていないという反省もございしますが、引き続き推進費などのツールを使いまして、ご支援させていただきたいと思っております。

兵庫県および全環研協議会の皆様におかれましては、準備作業や当日の運営にご苦労もあったかとは思いますが、非常につつがなく的確な運営をしていただきました。厚く御礼申し上げたいと思います。

本研究発表会は、地環研にとってたいへん貴重な機会であるとの声、評価を多くいただきました。機関によりましては、学会発表は年に1回など出張しにくいところもあるかもしれませんが、年に一回、全国から地環研の研究者が一堂に会するという貴重な機会、これを引き続き継続し一層

充実させてまいりたいと考える次第でございます。次期開催県でございます東京都および全環研協議会関係者の皆様には、引き続きお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

以上、私からの閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○次期開催県のあいさつ



(公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所所長
柿沼 潤一 氏)

東京都環境科学研究所長の柿沼です。

昨日今日と2日間にわたり、それぞれの地域の環境の実態に基づいた情報あるいは研究の内容に基づいての意見交換、情報共有ができたということは、非常に成功した研究発表会だったと思います。これも開催県である兵庫県のスタッフの皆様、そして開催地であります神戸市の方々のご支援のおかげであったと深く感謝しております。

また、会場ですとか、懇親会ですとか、そして開催の時期もルミナリエという記念すべきイベントの時期を選んでいただくという非常に配慮のあるホストをしていただきまして感謝を申し上げます。

ところで、来年度、私どもがそれを引き継ぐわけですが、兵庫県、神戸市の皆様に負けないう

に、準備をしようということで、現在取りかかっているところでございます。

場所につきましては決まり次第、お知らせすることになると思いますが、今のところ事務局では、文京シビックセンターという後樂園の側の会場で、12月の1日、2日で予定しております。確定しましたらお知らせいたします。

その時には、是非今回にも増して活発な発表と意見交換と、それから、今日来られなかった仲間の皆様を大勢お迎えして、充実した発表会になるようにしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○開催県閉会のあいさつ

皆様2日間にわたりたいへんお疲れさまでした。おかげをもちまして、盛会のうちに発表会を終了することができたと思います。環境省の吉川室長様、全環研の飯塚会長様、そして特別講演の柴田先生、各セッションの座長・発表者の方々、さらに最後まで熱心にご討論していただきました多数の皆様に感謝申し上げます。

皆様方におかれましては、今回の研究発表会で得られた課題解決のヒントや、新たな視点・着想などを今後の研究活動にぜひ活かしていただきたいと思います。

また、先ほど、東京都環境科学研究所の柿沼所長様からご挨拶がございましたが、来年度は東京での開催となります。今回発表された方は、バージョンアップした研究成果を、また、今回準備が間に合わなかった方は是非とも次回に発表して頂ければと思います。来年度も沢山の研究発表が行われ、全国環境研協議会の研究発表会が一層発展することを祈念しております。それでは、これをおもちまして「第41回環境保全・公害防止研究発表会」を閉会いたします。皆様どうもありがとうございました。